

金沢市農林業振興協議会〔会議概要〕

○日時 令和8年6月30日(火) 14:30～16:00

○場所 金沢市役所第二庁舎 3階 2301会議室

【出席者】

飯島委員（ほくりく自伐型林業協議会 副代表）
井口委員（金沢市農業委員会 会長）
大西委員（丸果石川中央青果㈱ 代表取締役社長）
小林委員（公募）
高野委員（公募）
多田委員（公募）
西尾委員（金沢農業振興協議会 会長）
西野委員（公募）
藤田委員（石川県県央農林総合事務所 所長）
前委員（金沢市校下婦人会連絡協議会 副会長）
南委員（金沢市農業協同組合 代表理事組合長）
山崎委員（金沢森林組合 代表理事組合長）
山下委員（石川県立大学 准教授）

以上13名

【欠席者】

大谷委員（金沢学院大学 教授）
田村委員（金沢中央農業協同 代表理事組合長）

以上2名

司会

（開会）

局長

（開会挨拶）

司会

（委員紹介）

山下会長

（挨拶、議事進行）

【議事】（1）「金沢の農業と森づくりプラン2025」の総括

事務局

（説明）

山下会長	質問、意見等はないか。
西野委員	P17「小学校の農業体験実施割合」について、75%の分母は何か。 農業体験のほかにも金沢おやこ農業塾、市民農園などさまざまな事業があるが、それも実施割合に含まれているか。
事務局	分母は市内の小学校数である。この指標は学校農園等による農業体験のみを計上しており、その他事業は含まれていない。
西野委員	対象が小学校なのか小学生なのか、明確にすることをご提案する。
事務局	新たなプランにはこの指標はないが、今後もいろいろなイベント等で子供たちが農業に触れる機会を作っていきたいと考えている。
小林委員	食育の最終目的、着地点をどのように設定しているか。子供たちに食べてもらい現在の消費量を増やすことか、将来手に取ってもらい生活への取り入れてもらうことか。後者であれば、大人への食育も必要であると思うがどうか。
事務局	食育については新プランに盛り込まれており、後の議事で説明させていただくが、子どもだけでなく大人への食育も対象としていく方針である。
大西委員	P8「金沢ブランド農産物栽培面積」について、500haを目標に掲げているが、漠然とした全体数量ではなく、実際に生産する品目ごとに設定すべきではないか。品目への対応をどのように考えているのか。
事務局	ブランド農産物については、産地を維持しながら栽培面積を増やしていきたいと考えている。希少品目もよりPRに取り組んでいきたい。
山下会長	鳥獣害対策について、農業の方は目標達成には少し足りなかった。 森づくりの方は、特にクマは日本全体でも対策が求められているため、新プランでも緊張感をもって取り組んでいければ良いと思う。
山下会長	【議事】（２）「金沢の農業と森づくりプラン2030」の内容について
事務局	（説明）

山下会長	質問、意見等はないか。
飯島委員	市営造林主伐再造林に伴い林福連携による苗生産を始めたとあるが、何の苗木を生産しているのか、また主伐の計画について全体計画がどの程度であり、現在の進捗率はどうか。 金沢もりづくりベースの運営についてどのように協議されているか。
事務局	金沢もりづくりベースは昨年度より着工し、本年10月の開館を目指して建築工事を進めていくところである。運営については、現在運営会議を立ち上げる準備を進めており、この中で協議していく予定である。
事務局	林福連携で生産している苗木はクヌギである。コナラも一部生産しているが出荷できるまでに2か年を要するため、採算性が取れていない。今後は主伐再造林後の林業の継続のためスギなど針葉樹も検討していきたい。 主伐については令和5年に策定した市営造林運用計画に基づいて実施しており、市営造林全体2,000haのうち経済性に優れた1,000haを順次主伐していく予定である。現在は約1%の12haを主伐し、今後40年程度の事業期間としている。
飯島委員	残りの1,000haはどうするのか。
事務局	運営計画での経済性判定は、主に車両系によるものである。今後架線集材など技術発展によって5年ごとに運用計画を見直す予定としており、この残り1,000haは徐々に経済林となることを期待している。
飯島委員	集落周辺などの再造林にはクマ対策として、クヌギなどクマへの給餌木ではなく、スギなども良いと思われる。
西尾委員	金沢農業振興協議会の実施する食育体験にバスを利用しているが、1台分の予算しかなく、大規模な小学校を対象にできない。予算拡充や効率の良い方法はないか また、このような会議には私を含め複数の農業従事者が出席しているため、会議開催は農閑期とするなど配慮していただきたい。
事務局	団体補助金の予算拡充は容易ではない。金沢農業振興協議会の決算を見たところ、事業費に若干余裕があるかと思うので、協議会の事務局にご相談いただければと思う。 金沢市農林業振興協議会の開催日程については配慮していきたい。

前委員	子供や若い世代につないでいくため、農林業がなぜ大切なのか、自給自足、国消国産と言われながら自給率が低いこと、農作物に感謝することも含めて伝えてほしい。また、手つかずの森が金沢の水を守っているので、森づくりの大切さも次の世代に伝えていただきたい。
事務局	食育や地産地消の推進に向け、PR活動等を展開してまいりたい。
事務局	金沢もりづくりベース東浅川を拠点とし、森林環境教育や木育の推進、森とふれあう機会の創出に力を尽くしていきたい。
井口委員	中山間地域での農業振興には圃場整備が必要不可欠である。今後とも県事業である圃場整備を進めていってほしい。
事務局	県と市、地元と連携して事業を進めていきたい。
多田委員	高温化対策技術の導入は、農協の部会のみが対象となるのか。 また、指標に「加賀野菜希少品目の生産量」とあるが、どの品目のことを指しているか。ヘタ紫なすを作っており、栽培が大変だが、単価が労力に見合わない。希少品目になるのはそれなりの理由があるので、生産量を増やすには、単価を上げるなどのメリットが必要である。市場から求められているのか それから、朝市の出品者を増やす目標であるが、これは出品農家数のことを指しているのか。例えば湯涌地区の朝市では、出品農家が売れ残った商品を引き取りに行かなければならず、出品者が減っている。出品する経営体数を増やすには、朝市を管理する人が必要である。
事務局	高温化対策については、影響を受けやすいきゅうりやトマトに対し、高軒高ハウスや遮光ネットの導入が挙げられるが、いずれも部会のみを対象としている。 加賀野菜希少品目は、生産量の一割増を目標としており、金沢農業大学校で、生産量が少ない品目に取り組んでもらえる人を育成していきたい。どのように市場価値を高めていくかが今後の研究課題である。
事務局	朝市については、朝市連絡会から「買い物客はたくさん来てくれるが出品する人がいない」との意見があったため、この指標を設定した。しかし、朝市を管理してくれる人も必要なので、連絡会で話し合っていきたい。
山下会長	プランにおいて、食育などは取組の件数が指標になることが多いが、将来的に農業に携わってほしいなら、レクリエーションではなく教育

	の一環として、スマート農業など最先端のリアルな農業に触れることも重要である。 子供たちに興味や関心を持ってもらうことを意識して事業を企画していただけるといいと思う。
山下会長	【議事】（３）令和８年度農林水産局主要施策について
事務局	（説明）
山下会長	質問、意見等はないか。
小林委員	農地耕作条件改善事業費について、施設修理などの補助金は各種確保していただいているが、それ以前に水利の悪さなどの改善がなされていない。各所で要望しているが対策が進んでいない。
事務局	農業において水利の管理は非常に重要なものであると認識している。医王ダムを含め、今後も連携しながら進めていきたい
小林委員	水利管理は長期的な経営意欲へも繋がるため、担い手の確保・育成の観点からもしっかりと行ってほしい。
西野委員	木のある暮らし奨励金制度について、物価上昇に対応するための金額向上などの対応をとっているが、申請下限数量は変更しないのか。 また、内装補助は上乘せのみであり、単独申請ができない制度であったが、変更しないのか。今後は新築住宅の着工よりも改修等が増加すると想定されるので、これの手当が必要でないか。
事務局	全体の使用量の増加を目的としているため、少量での使用を想定しておらず、下限数量の見直し、内装単独は見直す予定でない。
山下会長	（議事進行終了）
司会	（閉会）